

ウバガイ

太平洋海域

Spisula sachalinensis

地方名

ほっきがい、ほっき



生態

- ①寿命：30年以上
- ②成熟：3歳～4歳以上
- ③産卵期：5月下旬から6月上旬（水温13℃～14℃）
- ④分布：冷水域の外洋に面した浅海域（水深20m以浅の砂底質）に生息する。
- ⑤生態：受精後3週間～4週間の浮遊生活を送り、その後、殻長260μm～300μmに成長すると着底する。着底直後の稚貝は足糸を出して砂粒等へ付着するが、付着力が弱いいため、波浪や潮流等による減耗が大きい。

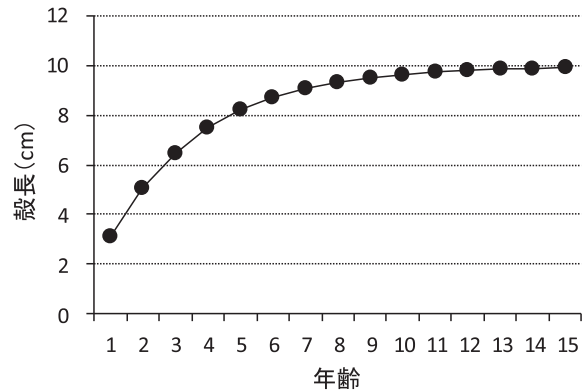


図 青森県におけるウバガイの成長
出典：杉浦ら(2017)青産技セ水研研報. 10, 1-7.

主な漁業

八戸市から六ヶ所村沿岸の砂浜域において、ほっきがいた網漁業にて漁獲される。ウバガイは砂の中に棲んでいるため、けたと呼ばれる爪のある漁具に袋網をつけて、海底をひっかくように曳いて漁獲する。現在は貝を傷付けないようにポンプで水流を送り砂から掘り起すような噴流式のけた網が主流である。

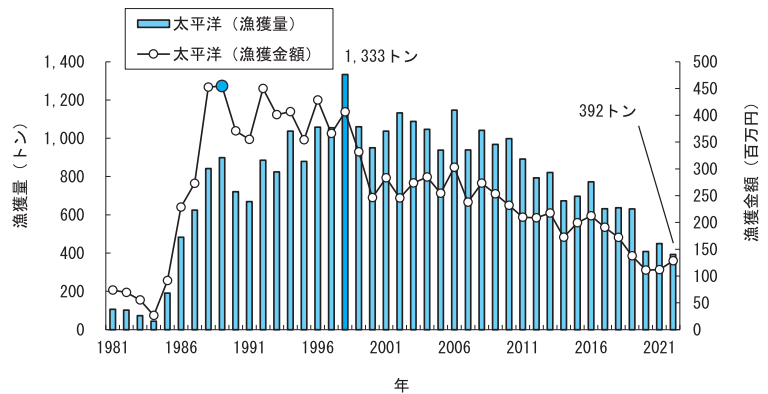


図 青森県太平洋海域におけるウバガイの漁獲量及び漁獲金額の推移

漁獲の動向と水準

漁獲量は1985年以降増加し、1998年に最高1,333トンに達した。その後は漸減傾向にあり、2014年～2019年の横ばい状態を挟んで、2022年の漁獲量は392トンまで減少した。2022年の漁獲水準は、漁獲量の最高値と最低値との間を3等分し、上から高位、中位、低位とすると、低位であった。

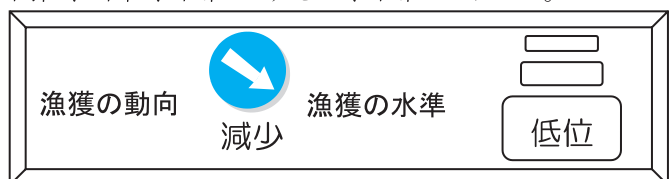
資源を上手に利用するために

☆資源量を把握し、資源状況に見合った漁獲を行う必要がある。

☆青森県漁業調整規則第39条により、殻長7cm

以下及び5月1日～11月30日の採捕を禁止しており、これを遵守する必要がある。

- ・三沢市漁協、百石町漁協、市川漁協、八戸みなと漁協の4漁協で「北浜海域ほっき貝資源対策協議会」を組織し、資源量調査や1日の漁獲量の上限を設定するなどの取り組みをしている。



トピックス

- ・百石町漁協では、燃油高騰対策などのために、1998年漁期から2経営体が1隻で操業する共同操業を行ってきたが、2007年漁期からは5経営体が1隻で操業する共同操業を実施している。
- ・三沢市漁協では、2005年漁期から2経営体が1隻で操業する共同操業を実施している。